

## 学生の運動部活動に対する期待について

### The expectation of the students about athletic club activity

佐藤 麻衣子<sup>1)</sup> 柴田 雅貴<sup>1)</sup> 塚本 正仁<sup>2)</sup> 小野里 真弓<sup>3)</sup>

*Maiko SATO, Masaki SHIBATA, Masahito TSUKAMOTO, Mayumi ONOZATO*

#### Abstract

The athletic club activity is not the curriculum of a university of sports and physical education. However, it is regrettable that there are some students who resigns from an athletic club. We thought that it is necessary to consider how to make the motivation to participate of the athletic club activity for the students. Then, we tried to measure the expectation of the students' about athletic club activity based on the double factor theory. It is thought to make the motivation of the participation to the athletic club activity by satisfying the student's expectation.

As the result, the following findings were ascertained by the questionnaires.

a) Overall disposition

It was thought that many students intend to affiliation of the athletic club by the expectation about self-education.

b) The relation with the sport speciality

The contents and the grade of the expectation about sport club activity didn't differ by the sport speciality.

c) The relation with the sport performance in high school period

The students who have high sport performance had positioned the expectation about sport performance in the higher rank. And, they had held the expectation about sport performance strongly.

d) The relation with the academic major

There were same tendency with the sports science major and the babyhood development major. The other hand, the dance study major had expected the improvement of sport performance compared with the other three majors.

*keywords : athletic club, expectation, participation, the double factor theory*

## I. 目 的

中等教育や高等教育の教育課程において、運動部活動は教育課程外の活動であるが、それに準ずる機能も有する<sup>5)7)13)</sup>。とりわけ、本学のような体育系大学の場合、それは顕著である。例えば、スポーツ指導者を目指す学生には、知識の習得とともに、ある程度の基礎体力や運動技能も必要である。しかし、それらの習得は、到底、授業時間内だけでは達成することはできず、運動部活動に委ねられる。また、「礼儀正しい」「忍耐力がある」「協調性がある」といったスポーツ選手気質の育成も、運動部活動を介して培われる部分が多い<sup>2)8)18)</sup>。もちろん、こういった教育機能とは別に、運動部活動は、わが国のスポーツ競技力向上の礎でもあり、政策的にもその機能を重視している<sup>6)</sup>。当然、本学のような体育系大学の運動部には、相応の機能が期待され

ることは言うまでもない。

他方、昨今、本学では運動部に所属する学生が減っている。もちろん、学内の運動部に所属しなくても、先に挙げると、スポーツ指導者に必要な基礎体力や運動技能を習得することは可能である。また、競技力向上の礎という機能についても、施策では、各学校の運動部活動にあわせ、地域のスポーツクラブでの展開も想定している。もちろん、運動部以外のスポーツ活動を介しても、スポーツ選手気質の育成は図られるであろう。しかし、大学内にその機会があるにもかかわらず、それを利用しない学生が増えているという状況は、放置しておくものではない。

もっとも、「多くの学生が運動部に所属して欲しい」という願いとは逆に、仮に、全員が入部したとすると、本学の教育施設設備の状況から、運動部のトレーニング活動が破綻してしまうことも明白である。また、スポーツの目的は「競技」「学習」「健康」「余暇」など多様であり、「競技」を主目的とする運動部活動への参加を全員に求める必要もない。したがって、「多くの学生

1) 日本女子体育大学 (講師)

2) 弘前学院聖愛高等学校 (教諭)

3) 日本女子体育大学 (助手)

を運動部活動に参加させる」という課題は、大学の教育目的、大学の教育施設環境、体育系大学における運動部のあり方、などを包括的に踏まえた考察が必要である。とは言え、「退部者」の問題は、やや事情が異なる。体育系大学に入学し、運動部への参加を希望した学生が退部してしまうということは、本学が、単なる競技者育成機関ではなく教育機関である以上、むしろ、早急に対策を講じなければならない課題と提議できる。

さて、「退部者を減少させる策」の1つに「運動部への参与の動機づけを図る策」を講じることがあげられる。そこで、筆者らは、集団や組織における成員の参与の動機づけに関する代表的理論である「二要因理論」に着目した<sup>14)</sup>。これは、集団や組織への成員の参与の動機づけを図るために、その主導者は、成員に満足感を抱かせることと、不満足感を抱かせないこと、の双方に配慮しなければならないという主張である。この際、「満足感を抱いていない状況は、必ずしも、不満足ではなく、同様に、不満足感を抱いていない状況は、必ずしも、満足ではない」という点が肝要である。すなわち、「満足感を抱かせている」からといって充分ではなく、当然、「不満足感を抱かせていない」からといって充分ではない。もちろん、満足感と不満足感は連関するものではあるが、あくまでも「満足感を抱かせつつ、かつ、不満足感を抱かせない」という2つの操作が求められる。したがって、運動部の退部者を減少させるためには、「どうすれば、満足感を抱かせられるのか」と「どうすれば、不満足感を抱かせないのか」の双方を講じることになる。

このことに関連し、運動部部員の運動部活動からの離脱に関する先行研究の多くは、その理由として、「運動部内での人間関係」や「競技スポーツ以外への興味関心の移行」をあげている<sup>4)10)12)</sup>。先述のように、満足感と不満足感は連関するが、これらは、どちらかと言えば、「不満足感」の側面に目を向けた事由と解釈できる。例えば、「運動部内での人間関係」という問題を処理したとしても、それは不満足感を除去するだけで、満足感には繋がらない。あるいは、「競技スポーツ以外への興味関心の移行」を修正したとしても、それは不満足感の発生原因の除去であり、満足感を生起させるには至らない。つまり、これまでの研究には、「運動部員に活動に対する満足感を抱かせる」という視座の考察が不足しているのである。そこで、筆者らは、学生の抱く「運動部活動に対する期待」を測定することに

した。すなわち、これを掌握し、学生の期待を踏まえた指導を展開することで、満足感を抱かせることができ、ひいては、運動部活動への参与の動機づけを図ることができると考えた。

また、「スポーツ指導においては、選手の精神心理状況を踏まえた方が良い」という報告もある<sup>19)</sup>。この視点からも、学生の「運動部活動に対する期待」を測定することは意義があると言える。

以上のように、筆者らは、組織活動への参与に関する動機づけ理論である「二要因理論」を参考に、運動部の退部者の減少策を講じることを研究課題と位置づけ、その第一段階として、基礎資料を得るべく、学生が抱く「運動部活動に対する期待」を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。本稿は、その結果を報告するものである。

## II. 方法

### 1. アンケート調査

#### 1) アンケート調査の項目

##### ① 「運動部活動に対する期待」について

主要概念である「運動部活動に対する期待」の質問項目設定にあたっては、事前に、武道種目、個人種目、球技種目、ラケット種目の各運動部に所属する学生若干名に依頼し、自由記述の回答を得た。この回答を基に、ある種目に固有な理由や個人的な理由をのぞいた一般的な内容を抽出し、20項目の質問項目を作成した。

アンケート調査票では、『次の質問は「運動部に所属する際に抱く期待」です。あなたは、運動部に入部する際、それぞれの期待を、どの程度、抱いていましたか』という質問を実施した。また、回答は「期待していなかった」「あまり、期待していなかった」「どちらとも言えない」「やや、期待していた」「期待していた」の選択肢から求めた。

##### ② 個人属性について

人間の精神心理面に着目する研究では、その結果を実践に応用するために、対象者の個人属性による違いを検証する。この知見から、例えば、「Aという精神心理特性は、A'という個人属性に多い。故に、A'という個人属性についてはAという精神心理特性を抱いていると考えて対処するべきである」などと実用的な示唆を講じるのである。

そこで、本研究でも、「専門種目」「競技レベル」「所属専攻」の3点に着目し、「運動部活動に対する期待」

との関係を検証した。なお、アンケート調査票では、「専門種目」は具体的名称を問い、「競技レベル」「所属専攻」は選択肢を設けて、それぞれ回答を求めた。また、項目ごとの下位次元（分類）については、後述する結果報告に記す。

## 2) アンケート調査の実施方法

本研究では、本学学生の実態をできるだけ正確に把握したいと考えた。そこで、各学年、各専攻ごとに履修者の多い授業を抽出し、担当教員の協力を得て、授業中に実施した（調査期間は2003年9月～10月）。その結果、2136部の回答が得られた（学生総数約2500人）。

## 2. 分析の手順と方法

「運動部活動に対する期待」の分析にあたって、まず、「期待していなかった」から「期待していた」の各回答に、1～5点の数値をあてはめた。また、個人属性による違いは、「内容の違い」と「程度の違い」について検証した。

まず、「内容の違い」である。これは、個人属性の下位次元（分類）ごとに各項目の平均値を算出し、序列を付け、その序列傾向を比較することによって行った。すなわち、個人属性の下位次元（分類）ごとの上位項目や下位項目から、期待の「内容の違い」を検証した。

次に、「程度の違い」である。これは、先と同様に、個人属性の下位次元（分類）ごとに各項目の平均値を算出し、その差を比較することによって行った。もちろん、高い値であれば、当該の期待を強く抱いていると考えられる。そして、差の有意性を確認することで、個人属性の下位次元（分類）による「程度の違い」を検証することができる。なお、個人属性の下位次元（分類）は、いずれの場合も4群に分類されたので、平均値の差の比較にあたっては一元配置分散分析と多重比較（LSD法により、危険率5%以下を有意とした）を用いた。なお、分散分析に先立ち、各分析視座の対照群ごとに、各項目の分布の正規性をKolmogorov-Smirnov値を用いて検定したところ、全ての条件下において0.1%以下の危険率であった。

さて、以上の統計処理にあたっては、パーソナルコンピュータ用の統計処理ソフト「SPSS for Windows Ver. 11.5」を使用した。また、「運動部活動に対する期待」は「運動部に所属している」もしくは「運動部に所属したことがある（現在はやめている）」という学生に対して質問を実施した。したがって、今回の分析対象は当該の1130人となる（全サンプルの52.9%）。

## Ⅲ. 結果と考察

### 1. 「運動部活動に対する期待」の全体傾向

「運動部活動に対する期待」について、全体の平均値を、表1に示す。上位5項目は、「充実感や達成感を味わいたい」「大学生活を充実させたい」「自己の競技能力を伸ばしたい」「向上心を養いたい」「友だちを増やしたい」であった。このうち4項目は、自己啓発に関わる内容であった。逆に、「就職活動の自己アピールに有利になる」「他大学と交流したい」「ストレスを発散させたい」といった、スポーツ活動の副次的効果については、下位に位置した。

これらの結果から、本学においては、運動部への所属を志する者（現在も所属中の者と、過去に所属していた者）は、大学生としての自己啓発を強く求めていると考えられる。これは、非常に喜ばしいことであるが、それ故、先述したように、運動部への参加を希望した学生が退部してしまう原因は、早急に対策を講じなければならない課題であると提議できる。

### 2. 個人属性と「運動部活動に対する期待」の関係

#### 1) 専門種目との関係

「運動部活動に対する期待」について、専門種目との関係を検証した結果を、表2-1と表2-2に示す。この際、専門種目は、「武道種目」「個人種目」「球技種目」「ラケット種目」に大別した。武道種目は、剣道、弓道、少林寺拳法、なぎなたの4種目、個人種目は、体操競技、新体操、陸上競技、水泳（競泳）の4種目、球技種目は、サッカー、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールの5種目、ラケット種目は、テニス、卓球、バドミントンの3種目である。したがって、本分析においては、これら以外の団体所属者は対象外とした。

表2-1には、種目群ごとに、各項目の平均値と標準偏差、および、平均値を基にした序列を示した。また、表2-2には、一元配置分散分析と多重比較（LSD法）の結果を示した。なお、多重比較については、一元配置分散分析で群間に有意差が認められた項目のみ実施した。

まず、種目群ごとの序列の傾向に着目してみる。その結果、種目群によって序列は異なるものの、どの種目群も、上位3項目は「充実感や達成感を味わいたい」「大学生活を充実させたい」「自己の競技能力を伸ばし

表1 「運動部活動に対する期待」の全体傾向

	平均値(SD)	序列
①正選手(大学代表)になりたい	3.57(1.45)	16
②自己の競技能力を伸ばしたい	4.42(0.98)	3
③大きな競技会に出場したい	3.99(1.34)	10
④強い選手と一緒に練習したい	3.95(1.24)	13
⑤友人から注目される活躍をしたい	3.38(1.31)	19
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	3.75(1.29)	15
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	3.95(1.21)	12
⑧充実感や達成感を味わいたい	4.61(0.69)	1
⑨協調性や社会性を養いたい	4.19(0.91)	6
⑩忍耐力を養いたい	4.16(0.98)	7
⑪向上心を養いたい	4.34(0.87)	4
⑫生活にメリハリをつけたい	4.14(0.93)	8
⑬大学生生活を充実させたい	4.49(0.78)	2
⑭友だちを増やしたい	4.34(0.90)	5
⑮人生の糧や教訓を得たい	3.99(0.95)	11
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	4.12(1.12)	9
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	3.56(1.19)	17
⑱ストレスを発散させたい	3.14(1.26)	20
⑲健康な身体を養いたい	3.88(1.09)	14
⑳他大学と交流したい	3.43(1.29)	18

たい」と同じであった。他方、下位5項目については、「友人から注目される活躍をしたい」「就職活動の自己アピールに有利になる」「ストレスを発散させたい」の3項目が全種目群に共通し、かつ、「ストレスを発散させたい」が最下位であることも共通していた。なお、種目群による違いとしては、「強い選手と一緒に練習したい」という項目が、ラケット種目では5位と上位であったのに対し、その他の3種目群では11位から15位と中位であったことがあげられる。

これらのことから、期待の内容は、種目群によってさほど違わないと考えられる。

さて、一元配置分散分析と多重比較の結果に着目してみると、「強い選手と一緒に練習したい」と「他大学と交流したい」の2項目のみに、群間に有意差が認められた(各項の有意水準は表を参照)。また、多重比較から、前者はラケット種目が、後者は武道種目が、それぞれ高い期待を抱いていることが明らかになった。しかし、期待の内容と同様に、期待の程度についても、種目群による差異に特筆するような傾向は見あたらない。

以上から、専門種目による、期待の内容や期待の程度の違いは小さいと考えられる。

表2-1 専門種目による「運動部活動に対する期待」の違い(1):種目ごとの平均値と標準偏差

	武道種目		個人種目		球技種目		ラケット種目	
	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列
①正選手(大学代表)になりたい	3.84(1.21)	16	3.56(1.54)	17	3.39(1.47)	17	3.64(1.34)	16
②自己の競技能力を伸ばしたい	4.47(0.63)	3	4.40(1.08)	3	4.39(0.98)	3	4.61(0.75)	1
③大きな競技会に出場したい	4.27(0.99)	6	3.87(1.47)	12	3.88(1.37)	14	4.20(1.04)	7
④強い選手と一緒に練習したい	3.96(1.07)	12	3.71(1.34)	15	4.00(1.20)	11	4.31(0.93)	5
⑤友人から注目される活躍をしたい	3.44(1.08)	19	3.24(1.37)	19	3.36(1.31)	18	3.29(1.24)	19
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	3.82(1.27)	17	3.78(1.30)	13	3.97(1.15)	13	3.77(1.23)	15
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	3.93(1.18)	13	3.93(1.26)	11	4.01(1.17)	10	4.06(1.07)	11
⑧充実感や達成感を味わいたい	4.64(0.61)	1	4.63(0.69)	1	4.54(0.69)	1	4.56(0.77)	2
⑨協調性や社会性を養いたい	4.40(0.69)	4	4.11(0.92)	8	4.23(0.88)	7	4.11(1.03)	10
⑩忍耐力を養いたい	4.27(0.81)	6	4.11(0.94)	9	4.18(1.00)	8	4.13(1.08)	9
⑪向上心を養いたい	4.38(0.78)	5	4.29(0.93)	5	4.36(0.83)	4	4.21(0.94)	6
⑫生活にメリハリをつけたい	4.16(0.90)	9	4.13(0.92)	7	4.10(0.92)	9	4.03(1.03)	12
⑬大学生生活を充実させたい	4.51(0.69)	2	4.50(0.77)	2	4.45(0.78)	2	4.44(0.77)	3
⑭友だちを増やしたい	4.24(0.80)	8	4.38(0.85)	4	4.35(0.86)	5	4.33(0.93)	4
⑮人生の糧や教訓を得たい	4.16(0.80)	9	3.97(0.92)	10	3.99(0.94)	12	3.92(1.04)	14
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	4.07(1.05)	11	4.22(1.08)	6	4.30(1.03)	6	4.17(1.04)	8
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	3.71(1.01)	18	3.58(1.19)	16	3.56(1.20)	16	3.47(1.12)	18
⑱ストレスを発散させたい	3.38(1.13)	20	3.11(1.25)	20	3.07(1.28)	20	3.19(1.25)	20
⑲健康な身体を養いたい	3.93(0.96)	13	3.73(1.14)	14	3.87(1.10)	15	3.99(1.04)	13
⑳他大学と交流したい	3.87(1.18)	15	3.51(1.31)	18	3.26(1.25)	19	3.54(1.26)	17

注意) 下線は各分類内の上位5項目を示す

表2-2 専門種目による「運動部活動に対する期待」の違い②：分散分析と多重比較

	分散分析など										多重比較				
	正規性 (Kolmogorov-Smirnov 値)										差 (F 値)				
	武	個	球	ラ	武	個	球	ラ	武-ラ	武-球	武-個	球-ラ	個-球	個-ラ	球<ラ
①正選手 (大学代表) になりたい	0.23***	0.24***	0.19***	0.21***	1.87	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
②自己の競技能力を伸ばしたい	0.34***	0.39***	0.35***	0.43***	1.37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③大きな競技会に出場したい	0.30***	0.32***	0.25***	0.30***	2.52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
④強い選手と一緒に練習したい	0.26***	0.24***	0.25***	0.31***	6.55***	-	-	-	-	-	-	-	個<球	個<ラ	球<ラ
⑤友人から注目される活躍をしたい	0.21***	0.15***	0.17***	0.19***	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	0.24***	0.22***	0.25***	0.21***	1.51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	0.24***	0.25***	0.26***	0.27***	0.39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑧充実感や達成感を味わいたい	0.43***	0.42***	0.39***	0.41***	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑨協調性や社会性を養いたい	0.32***	0.24***	0.29***	0.26***	2.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑩忍耐力を養いたい	0.31***	0.25***	0.30***	0.28***	0.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑪向上心を養いたい	0.32***	0.31***	0.34***	0.26***	0.87	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑫生活にメリハリをつけたい	0.29***	0.25***	0.26***	0.25***	0.31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑬大学生生活を充実させたい	0.38***	0.37***	0.36***	0.36***	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑭友だちを増やしたい	0.27***	0.33***	0.33***	0.32***	0.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑮人生の糧や教訓を得たい	0.26***	0.21***	0.23***	0.21***	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	0.26***	0.31***	0.34***	0.30***	0.96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	0.25***	0.20***	0.18***	0.19***	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑱ストレスを発散させたい	0.24***	0.21***	0.19***	0.20***	0.90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑲健康な身体を養いたい	0.24***	0.18***	0.22***	0.25***	1.83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑳他大学と交流したい	0.26***	0.17***	0.19***	0.17***	4.53***	-	-	-	-	-	-	-	武>球	武>ラ	個>球

注意1) 分散分析の結果に有意水準が認められた項目のみ、多重比較を行った。

注意2) \*\*\* p < 0.001 \*\* p < 0.01

注意3) 表記の略称は次を意味する。武：武道種目、個：個人種目、球：球技種目、ラ：ラケット種目

## 2) 高等学校時代の競技レベルとの関係

「運動部活動に対する期待」について、高等学校時代の競技レベルとの関係を検証した結果を、表3-1と表3-2に示す。アンケート調査では、競技レベルについて、在学中の成績と高等学校時代の状況を質問した。しかし、「運動部活動に対する期待」について問う際、「入部時に」と時期を設定したため、本分析では高等学校の状況に着目する。また、高等学校時代の競技レベルは、最高業績から、「全国大会出場以上」「ブロック大会出場」「都道府県大会出場」「地区大会出場」に大別した。

先と同様に、まず、競技レベル群ごとの序列の傾向に着目してみる。上位5項目を見ると、「自己の競技能力を伸ばしたい」「充実感や達成感を味わいたい」「向上心を養いたい」「大学生活を充実させたい」の4項目は、序列は異なるが、共通するものであった。他方、下位5項目についても、「友人から注目される活躍をしたい」と「ストレスを発散させたい」が全競技レベル群に共通していた。他方、下位5項目については、「友人から注目される活躍をしたい」「ストレスを発散させたい」「他大学と交流したい」の3項目が全競技レベル群に共通していた。

なお、競技レベル群による違いとしては、「大きな大会に出場したい」という項目が、全国大会出場では5位と上位であったのに対し、その他の競技レベル群では10位から15位と中位であったことがあげられる。また、上位項目ではないが、「親に喜ばれる活躍をしたい」という項目についても、全国大会出場では7位であったのに対し、その他の競技レベル群では12位か13位と中位で、序列傾向に違いが見られた。

これらのことから、期待の内容については、全国大会出場という高い競技レベルの学生は、競技成績の向上に関する期待を上位に位置づける傾向があると考えられる。なお、「大きな大会に出場したい」と「親に喜ばれる活躍をしたい」について、序列傾向に違いが見られたことから、競技レベルの高い学生は「外発動機」が強い可能性も推察される。

次に、一元配置分散分析と多重比較の結果に着目してみる。すると、「正選手(大学代表)になりたい」「自己の競技能力を伸ばしたい」「大きな競技会に出場したい」「強い選手と一緒に練習したい」「友人から注目される活躍をしたい」「恩師に喜ばれる活躍をしたい」「親に喜ばれる活躍をしたい」という、いずれも競技成績の向上に関する7項目において、群間に有意差が認め

表3-1 高等学校時代の競技レベルによる「運動部活動に対する期待」の違い(1): 競技レベルごとの平均値と標準偏差

	全国大会以上		ブロック大会		都道府県大会		地区大会	
	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列	平均値(SD)	序列
①正選手(大学代表)になりい	4.04(1.25)	14	3.61(1.36)	16	3.29(1.46)	18	2.96(1.56)	20
②自己の競技能力を伸ばしたい	4.55(0.89)	2	4.42(0.94)	3	4.33(1.03)	5	4.28(1.08)	4
③大きな競技会に出場したい	4.39(1.07)	5	4.08(1.25)	10	3.77(1.36)	14	3.54(1.57)	15
④強い選手と一緒に練習したい	4.14(1.13)	11	3.94(1.17)	13	3.90(1.21)	12	3.64(1.44)	13
⑤友人から注目される活躍をしたい	3.57(1.26)	18	3.44(1.28)	18	3.20(1.28)	19	3.33(1.48)	18
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	4.01(1.20)	15	3.84(1.22)	15	3.71(1.29)	15	3.36(1.35)	16
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	4.28(1.02)	7	3.97(1.19)	12	3.82(1.23)	13	3.68(1.30)	12
⑧充実感や達成感を味わいたい	4.63(0.68)	1	4.63(0.70)	1	4.59(0.67)	1	4.63(0.61)	1
⑨協調性や社会性を養いたい	4.20(0.88)	8	4.24(0.86)	7	4.20(0.93)	6	4.20(0.94)	6
⑩忍耐力を養いたい	4.18(0.96)	9	4.20(0.97)	8	4.18(0.98)	7	4.10(1.04)	8
⑪向上心を養いたい	4.39(0.83)	4	4.33(0.88)	4	4.35(0.87)	4	4.23(0.98)	5
⑫生活にメリハリをつけたい	4.09(0.97)	12	4.16(0.91)	9	4.17(0.92)	8	4.14(0.91)	7
⑬大学生活を充実させたい	4.51(0.76)	3	4.49(0.79)	2	4.50(0.76)	2	4.45(0.88)	2
⑭友だちを増やしたい	4.36(0.94)	6	4.33(0.83)	4	4.36(0.88)	3	4.35(0.82)	3
⑮人生の糧や教訓を得たい	4.06(0.93)	13	4.03(0.94)	11	3.91(0.99)	10	3.95(0.95)	10
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	4.15(1.11)	10	4.30(0.93)	6	4.09(1.16)	9	4.04(1.16)	9
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	3.60(1.15)	17	3.60(1.18)	17	3.47(1.25)	16	3.57(1.17)	14
⑱ストレスを発散させたい	3.17(1.29)	20	3.20(1.22)	20	3.06(1.22)	20	3.20(1.31)	19
⑲健康な身体を養いたい	3.82(1.14)	16	3.90(1.10)	14	3.91(1.05)	11	3.95(1.12)	10
⑳他大学と交流したい	3.56(1.32)	19	3.42(1.27)	19	3.33(1.24)	17	3.34(1.26)	17

注意) 下線は各分類の上位5項目を示す

表3-2 高等学校時代の競技レベルによる「運動部活動に対する期待」の違い②：分散分析と多重比較

	分散分析など										多重比較					
	正規性 (Kolmogorov-Smirnov 値)										差 (F 値)					
	全	ブ	県	地	全	ブ	全-県	全-地	ブ-県	ブ-地	県-地	全-ブ	全-地	ブ-県	ブ-地	県-地
①正選手 (大学代表) になりたい	0.30***	0.21***	0.19***	0.17***	25.78***	全>ブ	全>県	全>地	ブ>県	ブ>地	県>地	全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	県>地
②自己の競技能力を伸ばしたい	0.42***	0.36***	0.33***	0.32***	4.06**		全>県	全>地				全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	
③大きな競技会に出場したい	0.39***	0.29***	0.24***	0.26***	20.11***	全>ブ	全>県	全>地	ブ>県	ブ>地		全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	
④強い選手と一緒に練習したい	0.32***	0.24***	0.24***	0.24***	5.42**		全>県	全>地	ブ>県	ブ>地		全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	
⑤友人から注目される活躍をしたい	0.20***	0.16***	0.17***	0.18***	5.11**		全>県	全>地	ブ>県	ブ>地	県>地	全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	県>地
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	0.27***	0.22***	0.21***	0.16***	8.55***		全>県	全>地				全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	県>地
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	0.34***	0.24***	0.21***	0.20***	12.71***	全>ブ	全>県	全>地				全>ブ	全>地	ブ>県	ブ>地	
⑧充実感や達成感を味わいたい	0.44***	0.42***	0.41***	0.42***	0.25											
⑨協調性や社会性を養いたい	0.29***	0.29***	0.27***	0.28***	0.11											
⑩忍耐力を養いたい	0.31***	0.29***	0.28***	0.26***	0.26											
⑪向上心を養いたい	0.36***	0.31***	0.33***	0.30***	1.06											
⑫生活にメリハリをつけたい	0.27***	0.27***	0.27***	0.25***	0.55											
⑬大学生活を充実させたい	0.38***	0.37***	0.37***	0.37***	0.18											
⑭友だちを増やしたい	0.34***	0.32***	0.33***	0.31***	0.07											
⑮人生の糧や教訓を得たい	0.25***	0.22***	0.21***	0.24***	1.62											
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	0.31***	0.32***	0.29***	0.26***	2.17											
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	0.18***	0.18***	0.17***	0.19***	0.89											
⑱ストレスを発散させたい	0.20***	0.21***	0.22***	0.19***	0.69											
⑲健康な身体を養いたい	0.21***	0.22***	0.21***	0.24***	0.58											
⑳他大学と交流したい	0.18***	0.18***	0.18***	0.18***	2.23											

注意1) 分散分析の結果に有意水準が認められた項目のみ、多重比較を行った。

注意2) \*\*\* p < 0.001 \*\* p < 0.01

注意3) 表記の略称は次を意味する。全：全国大会出場以上、ブ：ブロック大会出場、県：都道府県大会出場、地：地区大会出場

られた(各項の有意水準は表を参照)。また、多重比較から、いずれの項目も、全国大会出場ほど高い期待を抱いていることが明らかになった。これらのことから、期待の程度については、競技レベルが高くなるほど、競技成績の向上に関する期待を強く抱く傾向があると考えられる。

以上から、競技レベルによる、期待の内容や期待の程度の違いは、競技成績の向上に関する期待に見られ、競技レベルの高い学生ほど、それらを上位に位置づけ、かつ、強く期待していると考えられる。

### 3) 所属専攻との関係

「運動部活動に対する期待」について、所属専攻との関係を検証した結果を、表4-1と表4-2に示す。もちろん、所属専攻は、「スポーツ科学」「舞踊学」「健康スポーツ学」「幼児発達学」である。なお、考察にあたっては、舞踊学専攻のほとんどは舞踊・ダンス系の運動部に所属しており、スポーツ系の運動部に所属している者が多い他専攻との比較には考慮が必要である。そこで、考察にあたっては、主に、舞踊学専攻以外の3専攻を中心に進めていく。

まず、専攻ごとの序列の傾向に着目してみる。専攻によって序列は異なるものの、上位5項目のうち、「充

実感や達成感を味わいたい」「協調性や社会性を養いたい」「大学生活を充実させたい」「友だちを増やしたい」の4項目は共通していた。いずれも、精神心理的充足に関する項目である。また、スポーツ科学と幼児発達学については、5項目とも全て同じであった。しかし、健康スポーツ学では、このうち、他2専攻で上位に位置した「自己の競技能力を伸ばしたい」が「協調性や社会性を養いたい」に変わっている。他方、下位5項目については、3専攻に共通する項目は、「ストレスを発散させたい」の1項目だけであった。これらのことから、期待の内容については、舞踊学専攻以外の3専攻の学生は、精神心理的充足に関する期待を上位に位置づける傾向があるが、下位の内容は、専攻によって異なっていると考えられる。

なお、舞踊学専攻は、「自己の競技能力を伸ばしたい」「大きな競技会に出場したい」「強い選手と一緒に練習したい」といった、競技成績の向上に関する項目が上位であり、他3専攻と傾向が異なっていた。したがって、競技成績の向上に関する期待を上位に抱いていると考えられる。

次に、一元配置分散分析と多重比較の結果に着目してみる。すると、14項目において、群間に有意差が認

表4-1 所属専攻による「運動部活動に対する期待」の違い(1): 所属専攻ごとの平均値と標準偏差

	スポーツ科学			舞踊学			健康スポーツ学			幼児発達学		
	平均値(SD)	序列		平均値(SD)	序列		平均値(SD)	序列		平均値(SD)	序列	
①正選手(大学代表)になりたい	3.72(1.38)	16		3.79(1.35)	13		3.12(1.54)	20		3.63(1.44)	13	
②自己の競技能力を伸ばしたい	4.49(0.92)	2		4.72(0.68)	1		4.16(1.15)	8		4.30(1.02)	3	
③大きな競技会に出場したい	4.10(1.27)	10		4.31(1.17)	5		3.64(1.47)	14		3.75(1.46)	10	
④強い選手と一緒に練習したい	4.01(1.18)	12		4.35(1.13)	4		3.70(1.34)	12		3.70(1.34)	11	
⑤友人から注目される活躍をしたい	3.40(1.28)	19		3.74(1.26)	14		3.27(1.37)	18		3.13(1.36)	16	
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	3.96(1.19)	14		3.51(1.42)	17		3.43(1.34)	17		2.78(1.42)	19	
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	4.09(1.14)	11		3.99(1.17)	10		3.69(1.28)	13		3.35(1.44)	14	
⑧充実感や達成感を味わいたい	4.60(0.69)	1		4.71(0.68)	2		4.63(0.64)	1		4.50(0.96)	1	
⑨協調性や社会性を養いたい	4.19(0.91)	7		4.07(0.90)	8		4.30(0.86)	5		3.90(1.26)	7	
⑩忍耐力を養いたい	4.17(0.98)	8		4.07(0.99)	8		4.23(0.94)	7		3.85(1.19)	8	
⑪向上心を養いたい	4.35(0.87)	4		4.28(0.94)	6		4.39(0.81)	4		4.10(0.98)	5	
⑫生活にメリハリをつけたい	4.11(0.94)	9		3.95(1.06)	11		4.29(0.84)	6		4.03(1.00)	6	
⑬大学生活を充実させたい	4.48(0.77)	3		4.41(0.94)	3		4.60(0.66)	2		4.31(1.10)	2	
⑭友だちを増やしたい	4.33(0.88)	5		4.18(1.14)	7		4.45(0.78)	3		4.15(1.19)	4	
⑮人生の糧や教訓を得たい	4.00(0.94)	13		3.86(1.02)	12		4.04(0.93)	9		3.65(1.08)	12	
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	4.33(0.98)	6		3.54(1.28)	16		4.01(1.12)	10		2.56(1.33)	20	
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	3.62(1.18)	17		3.47(1.19)	18		3.53(1.22)	15		3.10(1.33)	17	
⑱ストレスを発散させたい	3.17(1.23)	20		2.75(1.35)	20		3.22(1.25)	19		2.90(1.31)	18	
⑲健康な身体を養いたい	3.89(1.09)	15		3.61(1.29)	15		3.97(1.01)	11		3.85(1.20)	9	
⑳他大学と交流したい	3.43(1.27)	18		3.45(1.44)	19		3.44(1.26)	16		3.13(1.36)	15	

注意) 下線は、各分類の上位5項目を示す



表4-2 所属専攻による「運動部活動に対する期待」の違い②：分散分析と多重比較

	分散分析など				多重比較						
	正規性 (Kolmogorov-Smirnov 値)				差 (F 値)	ス-舞	ス-健	ス-幼	舞-健	舞-幼	健-幼
	ス	舞	健	幼							
①正選手 (大学代表) になりたい	0.24***	0.23***	0.17***	0.24***	12.85***	ス>健	舞>健	舞>健	舞>健	舞>幼	健<幼
②自己の競技能力を伸ばしたい	0.39***	0.47***	0.29***	0.36***	11.34***	ス<舞	舞>健	舞>健	舞>健	舞>幼	舞>幼
③大きな競技会に出場したい	0.32***	0.39***	0.24***	0.27***	10.52***	ス>健	舞>健	舞>健	舞>健	舞>幼	舞>幼
④強い選手と一緒に練習したい	0.27***	0.38***	0.23***	0.22***	8.63***	ス<舞	舞>健	舞>健	舞>健	舞>幼	舞>幼
⑤友人から注目される活躍をしたい	0.17***	0.22***	0.16***	0.18***	3.65**	ス<舞	舞>健	舞>健	舞>健	舞>幼	舞>幼
⑥恩師に喜ばれる活躍をしたい	0.26***	0.22***	0.19***	0.19***	22.19***	ス>舞	ス>幼	ス>幼	舞>健	舞>幼	健>幼
⑦親に喜ばれる活躍をしたい	0.28***	0.29***	0.22***	0.27***	11.62***	ス>健	ス>幼	ス>幼	舞>健	舞>幼	舞>幼
⑧充実感や達成感を味わいたい	0.42***	0.46***	0.41***	0.40***	1.13	-	-	-	-	-	-
⑨協調性や社会性を養いたい	0.27***	0.25***	0.30***	0.25***	3.32**	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	健>幼
⑩忍耐力を養いたい	0.29***	0.27***	0.29***	0.26***	2.09	-	-	-	-	-	-
⑪向上心を養いたい	0.33***	0.32***	0.33***	0.24***	1.51	-	-	-	-	-	-
⑫生活にメリハリをつけたい	0.26***	0.23***	0.29***	0.26***	4.43***	ス<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	健>幼
⑬大学生活を充実させたい	0.37***	0.37***	0.41***	0.32***	3.00**	ス<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	健>幼
⑭友だちを増やしたい	0.32***	0.28***	0.37***	0.31***	3.05**	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健
⑮人生の糧や教訓を得たい	0.23***	0.21***	0.24***	0.21***	2.60	-	-	-	-	-	-
⑯将来、指導者となった時の勉強をしたい	0.34***	0.19***	0.25***	0.17***	47.77***	ス>舞	ス>健	ス>幼	舞<健	舞>幼	健>幼
⑰就職活動の自己アピールに有利になる	0.18***	0.19***	0.19***	0.17***	2.66*	ス>舞	ス>幼	ス>幼	舞<健	舞>幼	健>幼
⑱ストレスを発散させたい	0.21***	0.18***	0.20***	0.23***	4.18**	ス>舞	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健	舞<健
⑲健康な身体を養いたい	0.21***	0.22***	0.22***	0.25***	2.56	-	-	-	-	-	-
⑳他大学と交流したい	0.17***	0.19***	0.16***	0.21***	0.73	-	-	-	-	-	-

注意1) 分散分析の結果に有意水準が認められた項目のみ、多重比較を行った。

注意2) \*\*\* p < 0.01 \*\* p < 0.05 \* p < 0.1

注意3) 表記の略称は次を意味する。ス：スポーツ科学専攻、舞：舞踊学専攻、健：健康スポーツ学専攻、幼：幼児発達学専攻

められた(各項の有意水準は表を参照)。すなわち、運動部活動に対する期待の程度は、専攻間によってかなり異なっていると推察される。

そこで、多重比較に着目してみる。すると、「正選手(大学代表)になりたい」「自己の競技能力を伸ばしたい」「大きな競技会に出場したい」「強い選手と一緒に練習したい」といった競技力向上に関する期待について、スポーツ科学専攻の方が健康スポーツ学専攻生よりも期待している。これは、当然の傾向であるが、他方、これらの項目について、スポーツ科学専攻と幼児発達学専攻との間には有意差はなかった。また、全体を概観しても、スポーツ科学専攻と健康スポーツ学専攻との間では9項目において有意差が認められたのに対し、スポーツ科学専攻と幼児発達学専攻の間では4項目であった。これらのことから、スポーツ科学専攻と幼児発達学専攻の運動部活動に対する期待の程度は、似ていると考えられる。

なお、舞踊学専攻は、専攻間の差異に有意水準が認められた14項目中12項目において、最も高い値を示した。また、取り分け、競技成績の向上に関する項目については、すべての項目において、最も高い値を示した。このことから、舞踊学専攻に所属する学生は、競技成績の向上はもちろん、運動部活動への参加から得られる多面的な効果を、他3専攻に比して強く抱いていると考えられる。

以上から、所属専攻による、期待の内容や期待の程度の違いは、舞踊学専攻以外の3専攻については、スポーツ科学専攻と幼児発達学専攻に似た傾向を示し、健康スポーツ科学専攻との間に若干の違いが見られる。また舞踊学専攻では、競技成績の向上に関する内容を上位に位置づけ、かつ、強く期待していると考えられる。

#### IV. まとめ

本学では、昨今、運動部に所属する学生が減っている。もっとも、諸般事情から、「全員入部」という状況は不要である。しかし、「退部者」の問題は、本学が教育機関である以上、早急に講じなければならない課題である。

そこで、筆者らは、集団や組織における成員の参与の動機づけに関する代表的理論である「二要因理論」に着目した。これは、集団や組織への成員の参与を強めるために、その主導者は、成員に「満足感を抱かせ

ること」と「不満感を抱かせないこと」の双方に配慮すべきという主張である。そもそも、運動部部員の運動部活動からの離脱に関する先行研究は「不満感」の側面に関わるものがほとんどであった。当然、「満足感」の側面にも着目する必要があると考え、「運動部活動に対する期待」を測定することにした。すなわち、これを掌握し、学生の期待を踏まえた指導を展開することで、満足感を抱かせることができ、ひいては、運動部活動に対する参与の動機づけを図ることができると考えた。

ただし、この解は一朝一夕に導き出せるものではない。そこで、本稿では、その第一段階として、策を講じる基礎資料となる学生が抱く「運動部活動に対する期待」について、アンケート調査の結果報告をした。

アンケート調査は2003年9月～10月に実施し、2136部の有効回答を得た。回答を基に、「運動部活動に対する期待」について、全体傾向と個人属性による違いを検証した結果、次のような知見が得られた。

##### ○全体傾向

自己啓発に関わる期待を主に、運動部への所属を志していると考えられた。

##### ○専門種目との関係

期待の内容や程度は、専門種目によって、さほど違わないと考えられた。

##### ○高等学校時代の競技レベルとの関係

期待の内容や程度は、競技成績の向上に関する期待に違いが見られ、競技レベルの高い学生ほど、それらを上位に位置づけ、かつ、強く期待していると考えられる。

##### ○所属専攻との関係

期待の内容や程度は、スポーツ科学専攻と幼児発達学専攻に似た傾向が見られた。また、舞踊学専攻は、他3専攻に比して、競技成績の向上に関する内容を上位に位置づけ、かつ、強く期待していると考えられた。

さて、今後の課題として、「運動部活動に対する期待」を多面的に把握することが必要と考える。そして、何よりも、問題意識の中核である、「運動部に所属する学生に満足感を生起させるような、学生の期待を踏まえた指導の展開」を講じていかなければならない。もちろん、その際、単に「学生の期待を踏まえる」のではなく、体育系大学の運動部としての教育機能や競技力向上機能を果たすことも忘れてはならない。

## 謝 辞

本研究は平成15年度二階堂奨励研究の補助を受けて実施しました。また、アンケート調査の実施にあたり、貴重な授業時間を割いていただきました先生方に、深く御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 阿部征次(1994) コーチングあらかると, ベースボールマガジン社, p.223.
- 2) 青木邦男(2003) 高校運動部員のスポーツ観とそれに関連する要因, 体育学研究, 48-2 : 207-224.
- 3) 浅沼道成(1990) 体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する研究, 体育・スポーツ社会学研究, 9 : 23-39.
- 4) 本田勝義・本田由記子・瀬川洋(2002) 大学生の運動部活動の参加に関する研究—運動部に対するイメージの尺度作成—, 東和大学紀要, 28 : 75-79.
- 5) 文部省体育局(1999) みんなでつくる運動部活動—あなたの部に生かしてみませんか—, 東洋館出版社, p.145.
- 6) 文部科学省(2000) スポーツ振興計画, 文部科学省ホームページ
- 7) 森田啓之(2000) 「運動部活動の教育的価値」論の再考(どこへ行く? 運動部活動), スポーツ教育学研究第20回大会研究集, pp.103-106
- 8) 丹羽劭昭・金子洋子(1983) 大学運動部員の態度からみたスポーツの文化的特徴—特に規範を中心に—, 体育・スポーツ社会学研究, 2 : 1-23.
- 9) 武田建(1985) コーチング—人を育てる心理学—, 誠信書房, p.253.
- 10) 土屋裕睦・中込四朗(1998) 大学新入運動部員をめぐるソーシャル・サポートの縦断的研究—バーンアウト抑制に寄与するソーシャル・サポートの活用方法—, 体育学研究, 42 : 349-362.
- 11) 上杉正幸(1990) スポーツ価値意識のパターンとその関連要因の分析—一流競技参加者と地域スポーツ参加者の比較—, 体育・スポーツ社会学研究, 9 : 1-21.
- 12) 横田匡俊(2002) 運動部活動の継続及び中途退部にみる参加動機とバーンアウトスケールの変動, 体育学研究, 47(5) : 427-437.
- 13) 山口満(1990) 特別活動と人間形成, 学文社, pp.123-161.
- 14) 若林満(1990) 組織メンバーの動機づけ: 組織と人間行動(横田澄司編), 泉文堂, pp.148-150.

(平成16年9月22日受付)  
(平成18年1月12日受理)

